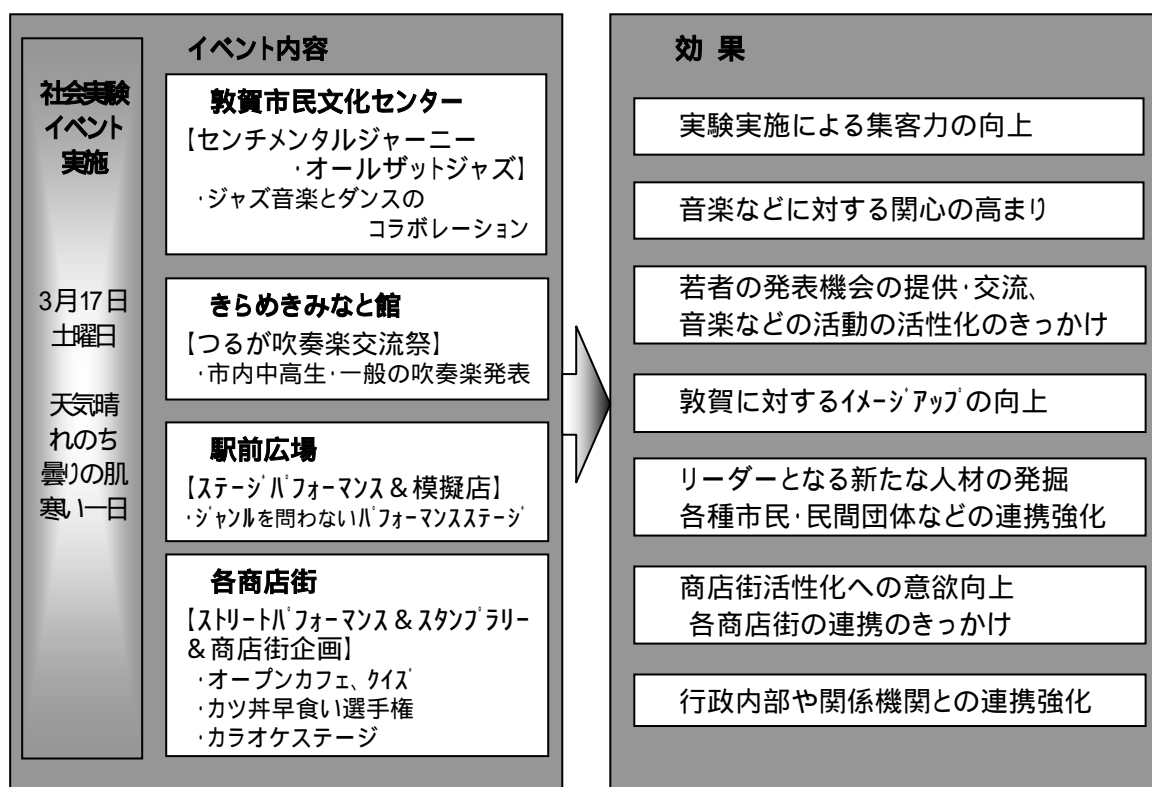


## ・社会実験の効果検証

# 社会実験の効果の検証

## 1. 社会実験イベント実施による効果

- ・各種調査結果や実行委員会委員の意見を踏まえ、社会実験イベント実施による効果を分析・整理する。



## 市民・来訪者の音楽に対する関心度は高く、集客力の向上が図られた

### 各会場の来場者数

市民文化センター	約 800 人
きらめきみなと館	約 650 人
駅前広場ステージ	約 350 人

### ストリートパフォーマンス出場者数

- ・ストリートパフォーマンスには 19 組が応募・出場し、募集予定数(12 組)を上回った。

### 中心市街地内の歩行者数

- ・神楽 1 丁目商店街・相生商店街において、イベント前(3/10:土曜日)の歩行者数とイベント当日(3/17:土曜日)のポイントラリー参加者数を比較すると、イベント実施により歩行者数が約 5 倍に増加した。

上記の事項から、市民・来訪者の音楽に対する関心度は高く、またイベント実施により集客力が向上することが確認できた。

## 市民・来訪者の音楽などに対する関心が高まった

### 市民文化センターでのイベント

- ・来訪者アンケート調査結果では、「生演奏の素晴らしさに感動した。」「生演奏のジャズは迫力がありとても良かった。」「今後もこのような企画をしてほしい。是非参加したい。お金を払っても良い。」などのご意見が多く、イベント実施により市民や来訪者の音楽に対する関心度を高めることに成功したと言える。
- ・また、敦賀の歴史を伝えるストーリー、様々な音楽やジャズとダンスとのコラボレーションなどの企画内容が来場者に好印象を与えた他、敦賀市出身のプロのアーティストによる舞台が若い世代の人達に良い刺激を与えることにもなった。

## 若者の発表機会の提供・交流、音楽などの活動の活性化のきっかけとなった

### きらめきみなと館でのイベント

- ・今回のイベントを通じて、中学校・高校などの吹奏楽部が発表の場を求めていることが分かった。
- ・出演者アンケート調査結果では、「いろいろな学校の演奏が聴けて良かった。参考になった。」「たくさんのお客様に来ていただき、やりがいがあった。」などの意見が多く、今回のイベントに出演した中学生・高校生にとっては、発表の機会を持つことができたことに加え、他校の演奏を聴く機会が持てたことで、向上心につながる良い刺激となり、今後の音楽活動の活性化につながったと思われる。
- ・来訪者アンケート調査結果では、「若い人たちが頑張っている姿を見て感動した。」「司会進行が上手だった」など、若い世代がはつらつとした演奏や司会をしたことによって、参加者に多くの感動を与えた。なお、会場設営・進行等には一部課題が残った。

#### 駅前広場・各商店街でのイベント

- ・ストリートパフォーマンスへの応募者数が募集予定数を超過しており、アマチュアバンドなど多くの活動団体が存在することが確認できたと共に、発表の機会を求めていることが分かった。
- ・出演者アンケート調査結果でも「楽しかった」とのご意見、また「今後も出演したい」とのご意見が多くあり、更なる音楽などの活動の意欲の向上につながったと言える。
- ・今後も継続して発表の場をつくることにより、市全体の音楽などの活動の活性化や市民の音楽などの活動への参加意欲の向上につながっていくと思われる。
- ・来訪者アンケート調査結果では、「とても楽しかった」「バンド演奏が良かった。感動した。」などの意見が多く、好評であった。
- ・一方、イベント当日は風が強くて寒く、また県外の方は駅から直接観光周遊バスに乗り込み観光地を巡る方が多く、市民は直接目的の会場に行ってしまうこともあり、観客が少なかった。更に来訪者の年齢層と音楽のジャンルが合わないなど、開催時期・企画内容・広報活動等に課題が残った。

#### 敦賀に対するイメージアップ向上につながった

- ・来訪者アンケート調査結果では、全体的に「楽しかった」とイベントに対する満足度が高かった他、「初めて訪れた敦賀でイベントに参加できて良い思い出になった」などの意見や、商店街やイベント会場での「スタッフの笑顔やぬくもり」「まちの人たちが親切」「元気で明るい雰囲気」などが「良い印象」として挙げられており、イベント実施により来訪者の敦賀に対するイメージが良くなったと思われる。
- ・また、市民文化センターでの国際港敦賀の発展の歴史を織り込んだ舞台内容が、敦賀の歴史を伝える良い機会となり、来訪者の敦賀に対するイメージアップ向上と共に、市民の敦賀に対する愛着心・誇りの醸成にもつながったと考えられる。

#### 市民・民間の中でリーダーとなりうる新たな人材の発掘ができた

#### 各種市民・民間団体などの連携強化につながった

- ・イベント開催にあたり、敦賀短期大学、TMO、JR 敦賀駅、吹奏楽連盟、文化協会、観光協会、商工会議所、青年会議所、商店街、NPO、アマチュアバンドの各代表からなる実行委員会を立ち上げ、行政はあくまでもサポートする立場に徹した。また、若手や女性を多く実行委員として参画させた。

このことにより、新たにリーダー格となる人材やプロデュースに長けた人材が発掘でき、企画・運営がスムーズに出来た。また、各種団体の横のつながり・連携の強化が図られた。

### 商店街活性化に向けた取り組み意欲の向上、各商店街の連携のきっかけとなった

- ・ 商店主アンケート調査結果より、今回のイベント実施により商店街の活性化には「あまり効果がなかった」「効果がなかった」とのご意見が多かったが、今回のイベントを今後も「積極的に行うべき」とのご意見が多く、また商店街独自のイベントの開催に前向きな意見も多くあった。更に、ある商店街では今回のイベントをきっかけとして、今後独自のイベントを毎月開催していくことになり、商店街の活性化に向けた取り組み意欲の向上につながった。
- ・ また、今回のイベントは中心市街地内の商店街が若手の商店主を中心に共同で行った初めてのイベントであり、実行委員からは「今後も各商店街が協力し合い、1つ1つ課題をクリアしながら取り組む必要がある」などの意見も出され、商店街の若手を中心に各商店街が連携して取り組む意欲の向上にもつながった。

### 行政内部や関係機関との連携強化につながった

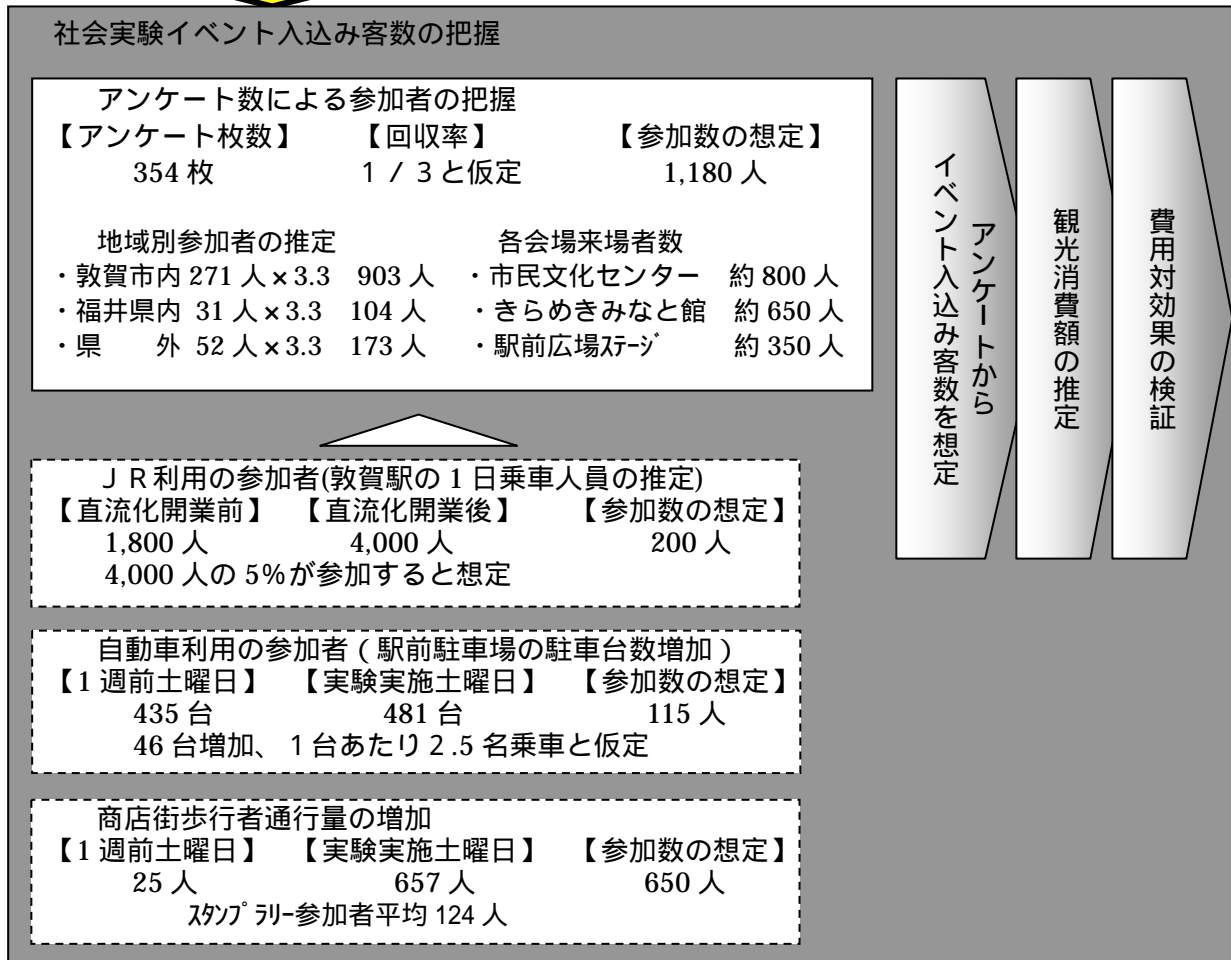
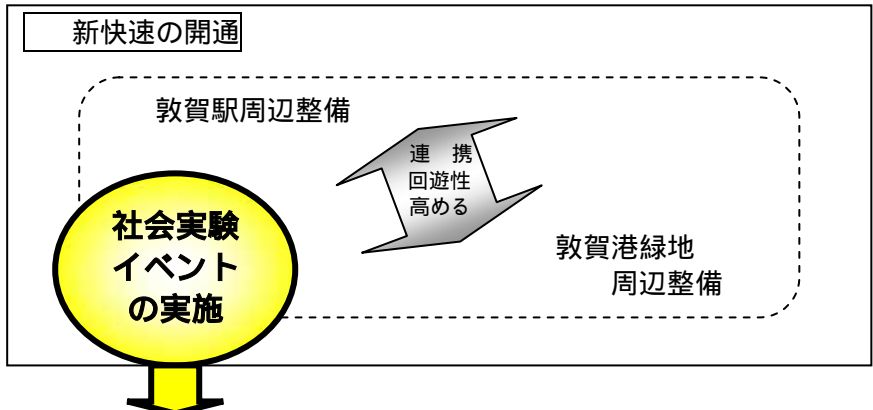
- ・ 今回、行政はイベントをサポートする役割を担ったが、その中で目的を共有して部・課を超えて横断的に取り組むことができ、横のつながり・連携の強化につながった。
- ・ また、国や県（道路管理者、警察、保健所など）の関係機関の協力を得てイベントを実施したことによって、関係機関のまちづくりへの認識を深めることになり、今後の協力体制・連携強化につながった。

## 2. 社会実験イベント実施による費用対効果の検証

- ・ イベント参加者による経済波及効果を検証するため、イベント実施による敦賀市内への観光(イベント)入込み客数の増加について試算する。  
 その上で、観光(イベント)入込み客数の増加による経済波及効果を検証することとした。

### (1) 試算の前提

- ・ 試算を行う際、前提となる考え方や条件が異なれば、導き出される結果も変わってくる。このため、以下のフローにあるような考え方で社会実験イベント入込み客数を想定し、イベント参加者だけを対象とした経済波及効果を検証する。



## (2) 入込み客数の想定

### J R 敦賀駅の乗車人員

- ・社会実験イベント実施日の乗降客数の把握は困難であるため、平成 19 年 3 月に報告された『敦賀市広域周遊型まちづくり計画検討調査』の中の「新快速開通後の J R 敦賀駅乗降環境」からイベント参加者を想定する。

#### J R 直流化後の乗降環境・新快速開通後の乗車人員データ

直流化開業後の普通列車(新快速、快速を含む)の乗客は、湖西線と北陸線が合流する近江塩津 - 敦賀間の上下線でカウントした結果、開業日の平成 18 年 10 月 21 日(土)と翌 22 日(日)は、1 日平均約 6,500 人が乗車し、開業前の約 1,800 人を大幅に上回った。直流化開業後の 1 ヶ月でも、土日祝日の利用客は約 4,300 人で、開業前の 2.4 倍にまで増加している。

<表 - 土日祝日の普通列車 1 日当り平均乗車人員の変化>

直流化開業前	直流化開業直後(10 / 21、10 / 22)	直流化開業後 1 ヶ月
1,800 人	6,500 人	4,300 人
-	3.6 倍	2.4 倍

出典：敦賀市広域周遊型まちづくり計画検討調査

なお、敦賀市企画調整課所有の『直流化開業に係る実態調査』では、敦賀市にある観光地・有名施設を訪れる観光客は軒並み増加している。

観光地・施設名	平成 17 年度(11,12 月合計)	平成 18 年度(11,12 月合計)	増加率
博物館	1,416 人	2,553 人	80%
みなとつるが山車会館	1,600 人	2,130 人	33%
気比神宮	88,000 人	90,000 人	2%
金ヶ崎宮	3,900 人	8,000 人	105%
あっとほうむ	9,600 人	18,500 人	93%
アクアトム	9,400 人	12,000 人	28%
リラ・ポート	12,052 人	14,141 人	17%

出典：直流化開業に係る実態調査

- ・このように、直流化開業後における普通列車の乗車客は 1 日当り約 4,000 人と推定され、多くの観光客が敦賀市内の観光地や施設を訪れている現状がある。
- このため、社会実験イベント当日も約 4,000 人が敦賀市を訪れているものと想定され、その内の約 5 %が社会実験イベントに参加したと想定する。(イベント参加者推定 200 人)

### J R 敦賀駅前駐車場の利用実態

- ・ J R 敦賀駅前の駐車場は利用率が高く、平日は約 350 台、土曜日曜で約 400 台から 500 台弱となっている。特に、社会実験イベント開催日の 3 月 17 日(土)は 481 台、イベント実施の 1 週間前の 3 月 10 日(土)は 435 台の利用となっている。
- ・ 自動車利用の参加者として、17 日と 10 日の駐車台数の差に、1 台当り 2.5 名乗車として社会実験イベント参加者を想定する。(イベント参加者推定 115 人)(各会場にも駐車場があるが駐車台数のデータはない。)

単位：台

料金 \ 日時	3/5~3/9 の平日平均	3/10(土)	3/11(日)	3/12~3/16 の平日平均	3/17(土)	3/18(日)
無 料	237	305	263	260	328	339
1000 円未満	94	100	85	98	107	95
1000 円以上	41	30	40	47	46	42
合 計	372	435	388	405	481	476

### 商店街歩行者通行量の実態

- ・ 各商店街におけるイベント当日のスタンプラリー参加者を基本に、イベント前(3/10:土曜日)とイベント当日(3/17:土曜日)との歩行者数を比較すると、イベント実施により歩行者数が約 5 倍に増加した。

#### 【各商店街の歩行者数】

単位：人

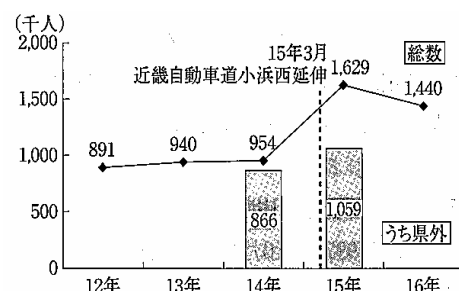
商店街	イベント前 の歩行者数 (3/10:土曜日) (10:00~14:00)	イベント当日 の歩行者数 (3/17:土曜日) (10:00~14:00)	イベント当日 スタンプラリー参加者 (3/17:土曜日) (10:00~14:00)	増減	備 考
駅 前		345			イベント前の歩行者数データなし
本町 2 丁目		657	131		イベント前の歩行者数データなし
本町 1 丁目		657	127		イベント前の歩行者数データなし
神楽 1 丁目	29		147	5.1 倍	イベント当日の歩行者数データなし
相 生	20		104	5.2 倍	イベント当日の歩行者数データなし

### 参考

敦賀市と同じく嶺南地域の拠点都市小浜市では、平成 15 年(2003 年)3 月の近畿自動車道舞鶴東 IC(京都府)~小浜西 IC(福井県)間の開通により、小浜市は関西圏と直結することとなった。鉄道と高速道路の違いはあるものの、開通前後における小浜市の県外観光客数は、14 年~15 年で 1.7 倍に増加している。

15 年は「若狭路博 2003」開催による効果も大きいと考えられるが、16 年においても対 14 年比で 1.5 倍の水準となっており、交通基盤整備が県外観光客の増加に寄与したと考えられる。

図 - 福井県小浜市の観光客推移



### (3) 観光消費額の推定

- ・イベント実施による入込み客数の増加によって、敦賀市内でどれだけの観光関連消費が発生するかを推定するため、福井県における一人当たりの観光消費額を使って推定する。

図 - 観光消費額(平成 16 年)

	福井県
宿泊・飲食費	18,046 円
土産代	5,316 円
その他(入場料等)	2,111 円
合 計	25,473 円

資料: 「観光客動向調査」(平成 16 年)

- ・今回のイベントでは宿泊は考えず、飲食費(昼食・飲料費等)として 3,000 円を用いる。今回、イベント参加料等(入場料)は徴収していないが、その他施設への入場料や今後イベント参加料(プロ演奏など)を想定できるため計上する。また、市内参加者については、土産代は計上しない。
- ・イベント客数については、実験実施後のアンケート回収数(アンケート回収率 1/3 と仮定)から、敦賀市内 903 人、敦賀市以外の県内と県外客 277 人と推定した。
- ・この結果、約 7,500 千円の観光消費額が推定できる。

#### 敦賀市内参加者

	平均単価(円)	イベント客数(人)	総 額(千円)
飲 食 費	3,000	903	2,709
土 産 代	5,316	-	-
その他(入場料等)	2,111	903	1,906
合 計	10,427		4,615

#### 県内・県外参加者

	平均単価(円)	イベント客数(人)	総 額(千円)
飲 食 費	3,000	277	831
土 産 代	5,316	277	1,472
その他(入場料等)	2,111	277	584
合 計	10,427		2,887

### (4) 社会実験イベントの開催費用

- ・今回の社会実験イベント開催費用は、約 12,000 千円で、国庫補助と敦賀市、民間の費用負担で賅っている。

#### イベント費用内訳

項 目	金額(千円)	備 考 (内 訳)
事務局費	700	通信運搬・食料・消耗品等
催 事 費	7,500	出演料・催事委託・音響・照明・吹奏楽・商店街・保険料等
広 報 費	2,500	媒体使用・印刷製本・広告宣伝費等
調 査 費	1,000	アンケート調査・集計分析・報告書
合 計	11,700	

## (5) 費用対効果の検証

- ・ イベント実施による観光消費額は約 7,500 千円と推定された。  
また、社会実験イベント開催費用は約 12,000 千円である。  
費用対効果  $B / C$  ( イベント実施による観光消費額 / イベント開催費用 ) = 0.625  
となり、今回の社会実験イベント実施による金銭的収益効果は低いこととなった。
- ・ しかしながら、金銭的収益以外に、敦賀市のイメージアップの向上やリーダーとなりうる人材の発掘、商店街の取り組み意欲の向上、各商店街の連携、行政内部の連携強化、更には市民や来訪者の音楽などに対する関心が高まるとともに、若者の発表の機会の提供・交流のきっかけづくりとなり、敦賀市を背負うことになる若者が街の活性化やまちづくりに関心を示したことの効果が非常に大きい。
- ・ 今回は、県外へのPR不足を指摘されているが、事実、イベント推定参加者の1/3が県外や県内の参加者であり、2/3は敦賀市内在住の参加者であった。  
今後は、敦賀市以外の県内や県外の参加者を多くすることによって、更に観光消費額は向上すると予想される。
- ・ また、これはイベント実施による1次波及効果であり、1次波及効果によって得られた個人所得が消費を通じて間接的にもたらす2次波及効果も、さらに見込まれることについて注目すべきである。
- ・ 一方、広範囲に手を広げすぎた社会実験イベントであったため、ポイントを絞って支出を抑制していくことも検討しなければならない。
- ・ いずれにしても、観光客や交流人口が増え、それが維持できるかどうかは『敦賀市が訪れる場所として魅力的かどうか?』にかかっている。市民主体のイベントを継続しつつ、数年後の観光客数の消費試算が予測を上回るような対策を検討していくことが大切である。